

# 平成23年度 法科大学院入学者選抜試験問題

## 憲 法

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
2. 試験時間は、60分です。
3. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明や解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答にあたっては、必ず黒か青のペン（鉛筆は不可）またはボールペンを使用してください。
5. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
  - (1) 受験番号・氏名を所定欄に記入してください。
  - (2) 解答用紙は、2枚あります。2枚目の解答用紙にも受験番号・氏名を記入し、ホチキスは、はずさないで使用してください。
  - (3) 訂正する場合は、＝線で消すなどして、分かりやすく訂正してください。
  - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
6. 問題用紙の余白等は適宜利用してかまいません。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

20××年×月×日、衆議院の法務委員会において当時の野党であったX党議員のAは、自身の所属する会派を代表して質問に立っていた。与党が提案した裁判所法の見直しに絡んでの法務大臣への質問であったが、近年、裁判官の品位が劣ってきたと述べた上で、「例えば、自分が独自に調査したことによれば、札幌地裁の刑事部のY判事が、判事としてはあってはならない違法行為を行った」、という指摘をした。その内容とは、実名をあげてY判事が自身の担当する刑事事件において、被告の女性と個人的に接触し、事前に証言を誘導していた疑いがあるというものであった。この法務委員会でのやりとりは、NHKによる国会中継の放映時間内にて行われ、当の判事Yは家族を通じてその内容を知るに至り、自分のことが述べられたと困惑した。さらに、K社が刊行する週刊誌が後にこの内容を取りあげたが、そこではAからの取材を秘して、国会中継の報道内容を報道するにとどめ、判事は仮名としていた。Yは自分には身におぼえの無い疑いをかけられたと妻には語り、いずれ自分はやがて「弾劾裁判」にかけられるのではないかと、深く思い悩み、結局、誰に相談することもなく自らの命をたった。後に感想を求められた当のA議員は、「Yさんには気の毒なことであったが、自分は司法改革のために一般論を述べただけで、Yさん個人の名誉を侵害するつもりはなかった」と述べていた。

Yの妻は、国会議員であるAの発言が直接の原因でYは自殺に追いやられたと判断し、なんとか夫の名誉を回復したいと考えた。そこで、旧知の弁護士に相談することとした。

[設問1] この事件の弁護士として、誰に対して、どのような形式の訴訟を起こすことが最も有効と考えられるでしょうか。訴訟の相手方とその形式について簡潔に答えなさい。(15点)

[設問2] 設問1における憲法上の論点に関するあなた自身の見解を述べなさい。(65点)